



Kofax RPA

アップグレードガイド

バージョン: 11.5.0

日付: 2023-10-02

KOFAX

© 2019–2023 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

はじめに.....	4
関連ドキュメント.....	4
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	6
第 1 章 : Kofax RPA 簡単アップグレードの基本.....	7
以前のバージョンからのアップグレード.....	9
一般的なアップグレードのガイドライン.....	9
Management Console をアップグレードする.....	10
KCU 用に新しいクラスタを作成する.....	11
アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する.....	11
古いクラスタを削除.....	12
Design Studio に関する重要な通知.....	12
各プロジェクトの規模を常にコンパクトにする.....	13
RoboServer サービスのインストールのアップグレード.....	13
Document Transformation Service をアップグレード.....	14
Desktop Automation サービスの自動アップグレード.....	15
Kofax Analytics for RPA をアップグレード.....	15
プロセス検出アップグレードノート.....	16
アシスト入力から手動入力へのアップグレード.....	16
動的ライセンスの分配モードを有効にする.....	18

はじめに

このガイドは、エンタープライズ環境で Kofax RPA の既存のインストールを新しいバージョンへアップグレードするシステム管理者を対象としています。

関連ドキュメント

Kofax RPA のドキュメント セットには次の場所からアクセスできます。¹

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/RPA/11.5.0-nlfihq5gwr/RPA.htm>

ドキュメント セットには、次のようなリソースがアルファベット順で含まれています。

Kofax RPA 管理者ガイド

Kofax RPA での管理タスクについて説明します。

Kofax RPA のベストプラクティス ガイド

Kofax RPA 環境でロボット ライフサイクル マネジメントを使用しながらパフォーマンスを最適化し、成功を確実にするために推奨される方法とテクニックを提供します。

Kofax RPA Desktop Automation サービス ガイド

リモート コンピューターで Desktop Automation を使用するために必要な Desktop Automation サービスを設定および管理する方法について説明します。

Kofax RPA 開発者ガイド

RoboServer でロボットを実行するために使用される Java および .NET API のプログラマー ユーザー ガイドが含まれています。また、製品で提供される Management Console REST サービスに関する情報が含まれています。

Kofax RPA ロボット構築の開始ガイド

Kofax RPA を使用してロボットを構築するプロセスを実行するためのチュートリアルを提供します。

Kofax RPA Document Transformation スタート ガイド

OCR、抽出、フィールドの書式設定、検証などを含む Kofax RPA 環境の Document Transformation 機能を使用する方法について説明します。

¹ オンラインのドキュメント セットにアクセスするにはインターネットに接続する必要があります。インターネットに接続せずにアクセスする方法については、『インストール ガイド』を参照してください。

Kofax RPA のヘルプ

Kofax RPA の使用方法について説明しています。ヘルプは、『Kofax RPA ユーザー ガイド』という PDF 形式のドキュメントとしても提供されています。

Kofax RPA インストール ガイド

Kofax RPA およびそのコンポーネントを開発環境にインストールする方法について説明します。

Kofax RPA Java API documentation (Kofax RPA Java API ドキュメント)

開発者が Kofax RPA で使用できる Kofax RPA Java API パッケージおよびクラスへのアクセスを提供します。

i Kofax RPA API は、元の製品名である「RoboSuite」に対する詳細な参照を含んでいません。RoboSuite の名前は下位互換性を確保するために残されています。API ドキュメントの中では、RoboSuite という用語は Kofax RPA と同じ意味で使われています。

Kofax RPA リリース ノート

その他の Kofax RPA ドキュメントからは入手できない最新の詳細やその他の情報が含まれています。

Kofax RPA 技術仕様

サポートされるオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

Kofax RPA アップグレード ガイド

Kofax RPA やそのコンポーネントを新しいバージョンにアップグレードする手順が含まれています。

Kofax RPA ユーザー ガイド

Kofax RPA とそのコンポーネントの使用手順が記載されています。Kofax RPA のヘルプ トピックに加えて、ヘルプに記載されていない詳細な内容が含まれています。

トレーニング

Kofax は、Kofax RPA ソリューションを最大限に活用するために、教室でのトレーニングとコンピュータでのトレーニングを提供しています。利用可能なトレーニング オプションとスケジュールの詳細については、<https://learn.kofax.com/> の Kofax 教育ポータルを参照してください。

また、<https://smarthub.kofax.com/> の Kofax Intelligent Automation SmartHub にアクセスして、追加のソリューション、ロボット、コネクタなどを見つけることもできます。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal (ナレッジ ポータル) で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

 [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[[Search \(検索\)](#)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリーを選択するか、[[View All Products \(すべての製品を表示\)](#)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
[[Resources \(リソース\)](#)] メニューで、[[Community \(コミュニティ\)](#)] リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
[[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)](#)] ページに移動し、[[Log in to the Customer Portal \(カスタマー ポータルにログイン\)](#)] をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
[[Support Portal Information](#)] ページに移動し、[[Log in to the Partner Portal \(パートナー ポータルにログイン\)](#)] をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[[Support Details \(サポートの詳細\)](#)] ページに移動し、適切な記事を選択します。

第 1 章

Kofax RPA 簡単アップグレードの基本

この章には、製品の以前のバージョンから Kofax RPA 11.5.0 にアップグレードする方法に関するベストプラクティスおよび重要な情報が含まれています。

Kofax RPA 簡単アップグレードにより、RPA インストールを最新の状態に保つことができます。RPA の最新バージョンには、バグ修正、新機能、拡張機能、セキュリティパッチが含まれています。RPA をアップグレードしても日常業務は中断されず、編集や完全な回帰テストを行わなくても現在のロボットを最新バージョンの RPA で実行できます。

Kofax RPA の新しいバージョンに確実に移行するために、次のことをお勧めします。

- 製品の既存のバージョンと同じコンピューターに新しいバージョンをインストールします。このアプローチにより、日常の作業で以前のバージョンを使い続けながら、新しい製品の機能を理解する時間が得られます。
- Management Console の新しいバージョンにロボットをインポートします。
- 2 つのバージョンを同時に使用し、Design Studio 11.5.0 で以前のバージョンのデフォルトプロジェクトを開いてテストします。

i デフォルトのプロジェクトをバージョン 11.5.0 で保存すると、以前のバージョンの Design Studio では開けなくなることに注意してください。

簡単アップグレード タスクの概要

1. Management Console 構成をバックアップします。
2. 新しいデータベース インスタンスを使用して、[Management Console をアップグレードする](#)を行います。
3. 必要に応じてバックアップを使用して Management Console 構成を復元し、現在の RoboServer を接続します。
ロボットが新しいバージョンの Management Console で実行されている間に、Kofax RPA の新しいバージョンに慣れてことをお勧めします。
4. ライセンス環境に基づいてクラスタを更新します。
 - CRE ライセンス環境の場合は、両方のバージョンの RoboServer を追加し、閾値のバージョンを使用して、すべてのロボットを更新するか閾値が変更されるまで、各 RoboServer で実行するロボットを設定します。
 - KCU ライセンス環境の場合、新しいバージョンでは各 RoboServer に [KCU 用に新しいクラスタを作成する](#)します。
5. RoboServer およびその他のサービスをアップグレードします。
 - サービスとしての Linux 上の RoboServer については、「[RoboServer サービスのインストールのアップグレード](#)」を参照してください。

- ヘッドレスモードの Linux 上の RoboServer の場合は、Webkit ロボットを実行するためのすべてのフォントがシステムにインストールされていることを確認してください。『Kofax RPA 管理者ガイド』の第 1 章の「RoboServer」を参照してください。
 - Windows 上の RoboServer の場合は、次のタスクを実行します。
 - 『Kofax RPA 管理者ガイド』の「サービスとしての RPA コンポーネントの実行」の章にあるコマンドを使用して、新しい RoboServer バージョン用の新しいサービスを作成します。
 - 『Kofax RPA 管理者ガイド』の「RoboServer の設定」を使用して RoboServer の設定を構成します。
 - その他のサービスについては、「[Document Transformation Service のアップグレード](#)」、「[Desktop Automation サービスの自動アップグレード](#)」、および「[Kofax Analytics for RPA をアップグレード](#)」を参照してください。
 - コマンドラインから RoboServer を呼び出して起動します。『Kofax RPA 管理者ガイド』の「RoboServer の起動」を参照してください。
6. **アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する**
- CRE ライセンス環境の場合は、ロボットが新しいバージョンにアップグレードされると、ロボットは自動的に新しいバージョンの RoboServer で実行されます。アップグレードされていないロボットは、以前のバージョン RoboServer で引き続き実行されます。
 - KCU ライセンス環境の場合は、プロジェクトを新しいクラスタに移動し、ロボットが新しい RoboServer で動作することを確認します。
7. データベース マッピングを更新します。『Kofax RPA のヘルプ』の「データベース マッピング」を参照してください。
8. Kofax RPA 環境で API を使用する場合は、Java および .NET ファイルを更新します。

i これらのファイルは、Kofax RPA をアップグレードするときに更新する必要があります。新しい API ファイルは、Kofax RPA インストール フォルダの API フォルダ:C:\Program Files \Kofax RPA 11.5.0.0\API にあります。

この章は、次のトピックで構成されています。

一般的なアップグレードのガイドライン

メジャーバージョンまたはマイナーバージョンから別のバージョンへのアップグレードの最適な処理方法については、[一般的なアップグレードのガイドライン](#) トピックをお読みください。

RoboServer サービスのインストールのアップグレード

Linux 上の RoboServer をサービスとして新しいバージョンにアップグレードする場合は、「[RoboServer サービスのインストールのアップグレード](#)」のトピックをお読みください。

Document Transformation Service をアップグレード

新しいバージョンの Document Transformation Service にアップグレードする場合は、[Document Transformation Service をアップグレード](#) トピックをお読みください。

Desktop Automation サービスの自動アップグレード

[Desktop Automation サービスの自動アップグレード](#) トピックを読んで、Desktop Automation サービスを更新します。

Kofax Analytics for RPA のアップグレード

Kofax Analytics for RPA をアップグレードする場合は、[Kofax Analytics for RPA をアップグレード](#) をお読みください。

Process Discovery のアップグレード

Process Discovery アップグレードに関する注意トピックを読んで、使用している Process Discovery をアップグレードします。

アシスト入力から手動入力へのアップグレード

Kofax RPA 10.3.0 または以前のバージョンからアップグレードする場合で、また既存のロボットが Assisted Entry (アシスト入力) モードで SOAP Web サービスの呼び出しステップを使用している場合は、[アシスト入力から手動入力へのアップグレード](#) トピックをお読みください。

動的ライセンスの分配モードを有効にする

動的ライセンスの分配モードでは、RoboServer はリクエストごとにクラスタからライセンスを受け取ります。[動的ライセンスの分配モードを有効にする](#) トピックを読んで、動的ライセンスの分配モードをオンにします。

以前のバージョンからのアップグレード

10.3 から 10.3.0.9 までのいずれかのバージョンからアップグレードする場合、トリガー マッピングはバックアップで復元されません。次の場所にあるソリューションを使用してください。

<https://knowledge.kofax.com/bundle/z-kb-articles-salesforce7/page/22998.html>

一般的なアップグレードのガイドライン

このセクションでは、製品のメジャーバージョンまたはマイナーバージョンから別のバージョンへのアップグレードの実行方法について説明します。

この例はバージョン 11.0 から 11.1 へのアップグレードに基づいていますが、情報の多くは 10.x バージョンから 11.x バージョンへのアップグレードにも適用されます。

フィックス パックは累積的なものであり、通常は、同じメジャー リリース内でのアップグレード (たとえば、11.3.1 から 11.3.4 へ) は、あるメジャー リリースから別のメジャー リリース (11.3.0 から 11.4.0 など) にアップグレードする場合よりも簡単です。

i サービス パックまたはフィックス パックをインストールに追加するプロセスは、必要なステップが少ない場合があります。詳細については、サービス パックまたはフィックス パックのドキュメントを直接参照してください。

Kofax RPA をアップグレード時には、ビジネスに不可欠なロボットのテストと検証を常に推奨します。このトピックでは、ロボットが展開されたときに運用システムをアップグレードする方法を紹介します。

Kofax はすでに定義済みのロボット、タイプ、スニペット、マッピングなどと Kofax RPA の下位互換性があるため、実稼働システムをアップグレードする前に、テスト環境でロボットを検証することをお勧めします。Kofax RPA の新しいバージョンは、ロボット言語のセマンティクス、タイミング、Web サイ

ト、自動化 API の互換性に微細な変更が導入される場合があります。それがロボットの望ましくない動作につながる可能性があります。一部の変更は、セキュリティを確保するために必要なサードパーティライブラリの更新、またはソフトウェアの機能強化と改訂が原因である可能性があります。

i Kofax RPA の以前のメジャー リリースの Management Console 設定、スケジューラ、クラスタ、およびログ データベースを新しいメジャー リリースで再利用しないでください。エラーが発生する可能性があります。同じメジャー リリース内でアップグレードする場合、フィックス パックの README で特に指定されていない限り、データベースの再利用は許容されます。

Kofax RPA で Oracle データベースを使用して分析データを収集し、新しいバージョンへのアップグレード中に同じデータベースを指定する場合は、データベース内のテーブルを手動で削除して作成する必要があります。データベース テーブルの作成の詳細については、『Kofax RPA のヘルプ』の「RoboServer ログ データベース」および「データベース テーブルを作成するためのスクリプト」のトピックを参照してください。

特定のバージョンの Kofax RPA から次のバージョンへの移行の手間を軽減するために、Kofax RPA では、一定期間にわたって同じインストール環境で複数バージョンの RoboServer を並列に実行することができます。そのようにして、テスト環境内で並行して検証しながら、既存のバージョンを引き続き使用して本番環境でロボットを実行できます。新しいテスト環境の結果に満足し自信が持てたら、本番環境で使用するために新しいバージョンに移行できます。

Management Console をアップグレードする

RoboServer をアップグレードせずに、Management Console のみをアップグレードします。その後、Management Console の最新機能を使用して、最新機能を備えた RoboServer と Desktop Automation サービスをクラスタに追加します。

次の例では、Kofax RPA 11.0 から Kofax RPA 11.1 にアップグレードして、2 つの RoboServer を実行しています。[Management Console] > [管理] > [RoboServer] セクションで、新しくアップグレードした Management Console から 11.0 の RoboServer に正常に接続されていることに注目してください。

RoboServer

クラスタ	アクション	サーバー	バージョン
^ Production	⋮		
	⋮	172.18.71.28:50015	11.0.0.0
	⋮	172.18.72.27:50000	11.1.0.0

[管理] > [デバイス] セクションで Desktop Automation サービスを確認すると、このサービスが 11.1 の Management Console にシームレスに接続されていることがわかります。

i バックアップを使用して Management Console の設定を復元する場合は、すべての新しいデータベースを使用して新しいバージョンの Management Console をセットアップした後に、バックアップから Management Console の設定を復元してください。

Management Console を Tomcat 上で実行するように設定する場合は、『Kofax RPA 管理者ガイド』の「Tomcat Management Console」を参照してください。

KCU 用に新しいクラスタを作成する

KCU ライセンス環境で Kofax RPA を使用している場合は、RoboServer と Desktop Automation サービスを実行するための新しいクラスタを作成します。

i 新しいバージョンの環境をセットアップし、KCU ライセンスを使用する古いロボットを新しい RoboServer で実行する場合 (たとえば、10.3.2.2 の RoboServer を Management Console 11.2 環境に追加する場合は、新しい Management Console に新しいクラスタを作成し、古い RoboServer ノードをそのクラスタに配置します。『Kofax RPA のヘルプ』の「クラスタ設定の構成」を参照してください。

バックアップを使用して、Kofax RPA の新しいバージョンにアップグレードした場合、RoboServer の閾値のバージョンは自動的に更新されません。ロボットを確実に実行できるようにするには、[クラスタ設定] > [一般] > [閾値のバージョン] の順に移動し、手動で RoboServer の閾値のバージョンを指定してください。

アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する

プロジェクトが最新のバージョンで動作することを検証した後に、新しいクラスタに移動します。このアクションでは、次のスクリーンショットのように、プロジェクトのスケジュールに紐づくクラスタを変更する必要があります。

スケジュール

検証済みのプロジェクトで、[スケジュール] に移動し、スケジュールの **：** コンテキストメニューから [編集] をクリックします。[基本] タブで、[クラスタで実行] 設定までスクロールします。

Schedule

Basic Advanced

Jobs priority *
Medium

Jobs timeout *
10

Pre processing robot

Post processing robot

Run on cluster *
Production110

サービス

新しいクラスタに移動するには、REST および SOAP サービスのサービス クラスタを変更する必要もあります。[管理] > [プロジェクト] に移動し、プロジェクトの ; コンテキストメニューから [編集] をクリックして、[サービス] タブを選択します。[サービス クラスタ] リストで、新しいクラスタを選択します。

サービス クラスタ
Production110

プロジェクトでサービス クラスタのみを使用する

REST/SOAP リクエストの認証

アクセス制御-許可オリジン

古いクラスタを削除

すべてのプロジェクトが最新バージョンで実行されていることを検証し、すべての RoboServer および Desktop Automation サービスをアップグレードして新しいクラスタに配置した後に、古いクラスタを削除できます。

Design Studio に関する重要な通知

以前のバージョンの RoboServer を含むクラスタでプロジェクトが実行されている場合、ロボットを編集するには、以前のバージョンの Design Studio を使用する必要があります。ロボットが開かれ、新しいバージョンの Design Studio で保存されるとすぐに、最新バージョンの形式に移行されます (Management Console のリポトリで確認することで、ロボットのバージョン/形式を確認できます)。

ロボット					
フォルダ	名前	タ...	プロジェクト名	バージョン	
□	:	TrainingSchedule	robot	My Validated Project	11.0.0.0

リポジトリ内のロボットは、そのバージョンを明らかにします。

ロボットを最新バージョンの Design Studio で編集すると、以前のバージョンの RoboServer でロボットを実行することはできなくなります。そのため、ロボットを変更したい場合は、古いバージョンの Design Studio で編集するか、そのロボット（および同じプロジェクト内の他のロボット）が最新の RoboServer で動作するようにロボット（と同じプロジェクト内の他のロボット）を検証し、プロジェクト全体をアップグレードされたクラスタに移行する必要があります。

また、複数のバージョンの RoboServer が同じクラスタ内で混在する場合は、ロボットを実行したときにバージョンが切り替わることがあります。

各プロジェクトの規模を常にコンパクトにする

上記の方法でアップグレードを行う場合、アップグレードを容易にするために各プロジェクトを作成する際は、それぞれ内容データを増やしすぎないように運用してください。

RoboServer サービスのインストールのアップグレード

このセクションでは、Linux 上でサービスとして実行されている RoboServer をアップグレードする方法について詳しく説明します。

次の手順を実行して、Kofax RPA の Linux インストールをアップグレードします。

1. RoboServer を手動で停止し、ロボットの実行が完了するまで待ちます (オプション)。
2. パッケージを更新します。
3. 新しい `roboserver.settings` ファイルの設定を変更します (オプション)。
4. コンピュータを再起動するか、`RoboServerService start` コマンドを使用して RoboServer を再起動します。

Linux で Kofax RPA アップグレードするときは、次のことに注意してください:

- パッケージをアップグレードすると、`/opt/Kofax RPA/` ディレクトリ内のすべてのファイルが置き換えられます。
- アップグレード手順を開始すると、`init.d` サービスが停止し、新しいバージョンに置き換えられます。サービスは、ロボットの実行が終了するのを待たずにすぐに停止します。ロボットの実行を中断させないようにする場合は、アップグレードする前に RoboServer を手動で停止します。
- 新しいサービス用に、新しい `roboserver.settings` ファイルが作成されます。新しいファイルは `/home/Kofax RPA/.Kofax RPA/<リリースバージョン>/Configuration/` で作成され、これは古いバージョンのファイルも同様です。つまり、新しいリリース用の新しいディレクトリが作成され、古い設定ファイルは古いリリース名のフォルダにそのまま残るようになります。 `/etc/opt/Kofax`

RPA/RoboServer.conf にある設定ファイルへのリンクは、最後にインストールされたリリースの設定ファイルを指します。

- 古い roboserver.settings ファイルの設定は新しいものに転送されません。これは手動で行う必要があります。

この例では、Production110 という名前の新しいクラスタを作成した後に、RoboServer の 1 つをアップグレードし、このクラスタに配置しました。(「[KCU 用に新しいクラスタを作成する](#)」を参照してください。)

RoboServer			
クラスタ	アクション	サーバー	バージョン
^ Production	⋮		
	⋮	172.18.72.27:50000	11.0.0.0
^ Production110	⋮		
	⋮	172.18.72.07:50000	11.1.0.0

同様に、RoboServer バージョンに合わせていずれかの Desktop Automation サービスをアップグレードして、このクラスタに配置します。「[Desktop Automation サービスの自動アップグレード](#)」を参照してください。

Document Transformation Service をアップグレード

Document Transformation Service をアップグレードするには、次のアクションを実行する必要があります。

- プログラムファイルとインストールされた IIS サービス (Kofax RPA Document Transformation サービスと Kofax RPA Document Transformation クライアント) をアップグレードします。プログラムファイルのアップグレードが必要なのは、Document Transformation Service が実行している同じコンピュータに存在する場合のみです。デフォルトでは、プログラムファイルは C:\Program Files\Kofax DTS にあります。
- プロジェクト、カスタム設定などの作成されたデータを移動します。

アップグレードする前に、Document Transformation フォルダのバックアップを作成します。それにはプロジェクト、オンライン ラーニング ファイル、および Web.config ファイルの調整などのカスタム設定が含まれます。デフォルトでは、フォルダは Cドライブ(C:\Document Transformation)にあります。アップグレード時には、次の詳細を考慮することが重要です:

- 検証を待機している既存のバッチは、新しいバージョンでは機能しない場合があります。アップグレードを開始する前に、既存のすべてのバッチの処理を終了します。処理を終了していない場合、検証を待機しているバッチがアップグレード後に正常に処理されない場合があります。
- 既存のプログラム ファイルと IIS サービスを削除します。プログラム ファイルを削除するには、Windows のコントロール パネルから Kofax RPADocument Transformation をアンインストールします。EnableDocumentTransformationWindows スクリプトを使用して IIS サービスを作成した

場合、作成された IIS アプリケーション プール、Web サイト、およびインストールされた Document Transformation Service フォルダを削除します。

i アンインストールした場合、Document Transformation サービス スケジュールの停止に失敗する場合があります。Kofax RPADocument Transformation をアンインストールする前にスケジューラを手動で停止します。

プログラム ファイルとサービスを削除した後、新しいバージョンの Document Transformation Service のインストーラーが使用できます。その後、適切な EnableDocumentTransformationWindows スクリプトを使用して、新しいサービスをインストールします。

- カスタム設定をサービスに手動で再適用します。古い設定ファイルはサービスと互換性がない可能性があるため、コピーアンドペーストは避けてください。
- 組み込みの標準プロジェクトにカスタム構成を手動で再適用します。それ以外の場合は、古いプロジェクトに新しい名前を付けて、新しいバージョンで引き続き使用できます。

Desktop Automation サービスの自動アップグレード

バージョン 10.7 以降、[パッケージをロック] オプションが Desktop Automation サービス ウィンドウの [Windows] タブで選択されていない場合、Desktop Automation サービスの新バージョン パッケージは自動的にインストールされます。最初に新しいバージョン Management Console (または直接接続が使用されている場合は Design Studio) が Desktop Automation サービスへ接続を試みると、新しいサービス バージョン パッケージがインストールされます。ZIP ファイルのパッケージは、自動化されたコンピュータの C:\ProgramData\Kofax RPA にインストールされます。Kofax RPA コンポーネントのバージョンに応じて適切なパッケージが自動的に選択されます。詳細については、『Kofax RPA のヘルプ』の「Desktop Automation サービスの設定」トピック、または『Desktop Automation サービス設定ガイド』の「Windows タブのオプション」を参照してください。

Desktop Automation サービスの自動アップグレードは、Kofax RPA バージョン 10.2 以降でサポートされます。バージョン 10.7 以降は、インストール直後にこのモードをサポートします。バージョン 10.2 から 10.6 で自動サービスアップグレードを使用するには、Kofax RPA のコピーを少なくとも以下のバージョンの 1 つへ更新します:

```
10.2.0.8  
10.3.0.9  
10.3.1.2  
10.3.2.6  
10.4.0.4  
10.5.0.2  
10.6.0.3
```

Kofax Analytics for RPA をアップグレード

Kofax Analytics for RPA 2.7 は、Kofax Insight 6.5 を使用するよう設計されています。Kofax Analytics for RPA 2.7 の RPA ビューが変更されましたが、Kofax RPA の以前のバージョンの分析データベースとログ データベースを使用できます。

Process Discovery ビューは変更されており Kofax RPA 11.5.0 にある Process Discovery により集められ分析されたデータでのみ有効です。

Kofax Insight のアップグレードについては、『Kofax Insight インストール ガイド』にある「Insight のアップグレード」の章を参照してください。アップグレードを実行する前に、Kofax サポートに問い合わせることもできます。

プロセス検出アップグレードノート

Process Discovery の最新バージョンにアップグレードするときは、次のことに注意してください。

一般的な **Process Discovery** のアップグレード ノート

- Process Discovery の新しいバージョンにアップグレードすると、以前のバージョンの Agent と Analyzer は削除されます。
- Process Discovery の新しいバージョンにアップグレードすると、Agent と Analyzer の設定は上書きされます。
- 一括エージェントアップグレードの場合、Process Discovery Agent のサイレント インストールは、*Kofax RPA Administrator's Guide* (Kofax RPA 管理者ガイド) のセクションにある Process Discovery Agent の展開で説明されているように使用します。
- Management Console を使用して、Process Discovery グループ設定を復元できます。Kofax RPA のヘルプにある Management Console のバックアップを参照してください。

Process Discovery Analyzer のアップグレードに関する注意

- Agent データベースは、Analyzer のバージョンと一致するようにする必要があります。
- アナライザー データベースは、アナライザーのバージョンと一致する必要があります。

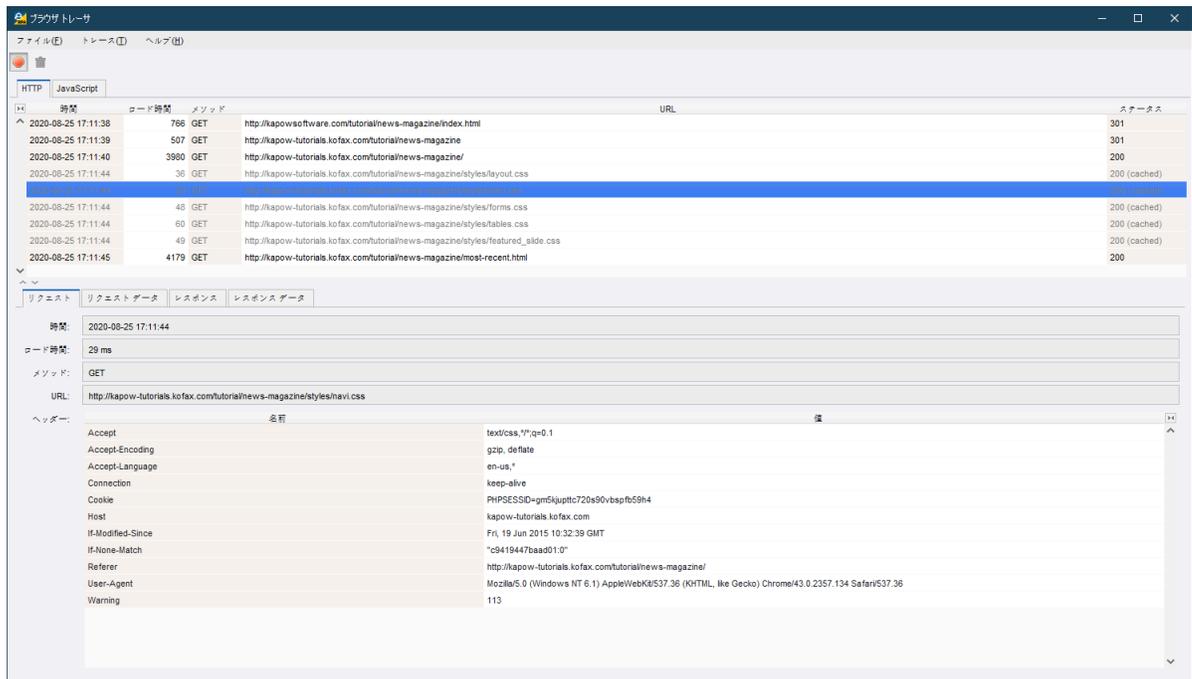
アシスト入力から手動入力へのアップグレード

バージョン 10.3.0.1 以降、Call SOAP Web Service ステップは、Assisted Entry モードをサポートしていません。Kofax RPA の以前のバージョンからアップグレードする場合、以下の説明に従ってステップを更新します。

1. 以前のバージョンの Design Studio (10.3.0.0 など) でロボットを開きます。ロボットのコピーを作成して、バックアップがあること、およびアップグレードが容易であることを確認します。次の手順では、元のロボットをコピーしたロボット内部の実装ステップを更新します。
2. Design Studio でロボットのコピーを開き、「**SOAP Web** サービスの呼び出し」ステップまで実行し、入力モードを [手動入力] に変更します。
3. 元のロボットに切り替えます。**SOAP Web** サービスの呼び出し のステップまで実行します。[ツール] メニューから、または F12 を押して、[ブラウザトレーサ] を開きます。[ブラウザトレーサ] で赤いボタンをクリックして、トレーサの記録を開始します。
4. その後のステップをクリックして、**SOAP Web** サービスの呼び出し のステップを実行します。
5. 元のステップに指定された **Web** サービス URL がある場合、元のロボットのステップから更新されたロボットのステップにコピーします。それ以外の場合は、ブラウザトレーサに表示されるものが

そのロボット用であることを確認するために、エディターで元のロボットを選択します。ブラウザトレーサで、単一の HTTP イベントエントリをクリックし、URL をコピーして、更新されたステップの **Web サービス URL** プロパティに貼り付けます。

6. ブラウザトレーサで、単一の HTTP イベント エントリをクリックし、[リクエスト] タブで **SOAP Action** というヘッダー プロパティを見つけます。ブラウザトレーサは、次の例のようになります。



SOAP Action ヘッダーの値をコピーし、更新されたロボットに切り替えて、**SOAP Action** というプロパティに貼り付けます。値をコピーするには、リスト内のヘッダーをダブルクリックし、HTTP ヘッダーの表示 ダイアログボックスから値をコピーします。

7. ブラウザトレーサでイベントを再度検索し、[データの要求] タブをクリックし、要求のテキスト全体をコピーし、更新されたステップの **SOAP 要求** プロパティに貼り付けます。
8. 元のステップで使用されている WSDL ファイルを調べて、更新されたステップが正しい SOAP バージョンを使用していることを確認してください。この WSDL ファイル `http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/` という名前スペースを使用する場合、バージョンは 1.1 です。 `http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/` という名前スペースを使用する場合、バージョンは 1.2 です。
9. 更新されたステップの アウトプット、オプション、およびその他のプロパティの値が元のステップと同じであることを確認してください。
10. 更新されたロボットをテストし、保存します。Kofax RPA 10.4.0 で開いてテストします。
11. 以前のすべてのステップは、ステップ内のパラメーター値が静的である、つまり変数に依存しないと想定していました。ステップのパラメーター値が変数から取得される場合、静的な値の代わりに式を使用して **SOAP 要求** プロパティの値を作成します。

リクエストのコピーを取得することから開始します。オプションを **XML** から「**エクスプレッションからのXML**」に変更し、リクエストを **Expression** テキストフィールドに貼り付けます。これにより、エラーのある式が生成されます。これを修正するには、`>>` と `<<` で囲みます。

動的プロパティ値

以前のすべてのステップは、ステップ内のパラメーター値が静的であると想定していました。つまり、それらのパラメーター値はハード コーディングされており、ロボットの実行中に変更されません。ステップのパラメーター値が変数から取得される場合、静的な値の代わりに式を使用して SOAP を要求プロパティの値を作成します。

要求のコピーを作成することから開始します。オプションを XML から「エクスプレッションからのXML」に変更し、リクエストを **Expression** テキストフィールドに貼り付けます。これにより、エラーのある式が生成されます。二重の大なり記号と小なり記号 (>> <<) で要求を囲むことで修正します。

たとえば、パラメータ zipCodeList の値が zipCodeList と呼ばれる変数から取得される場合、>> << で囲まれた SOAP リクエストは次のようになります (詳細は省略)。

```
>><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soapenv:Envelope ...>
  <soapenv:Body>
    <ns1:LatLonListZipCode ...>
      <zipCodeList xsi:type="xsd:string">90210</zipCodeList>
    </ns1:LatLonListZipCode>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope><<
```

この例の zipCodeList パラメーターの値は静的で、90210 と同じになります。ハード コーディングされた値の代わりに zipCodeList 変数の値を使用するには、パラメーターの実際の値を次の形式の変数名に置き換えます。

```
<< + zipCodeList + >>
```

コード例は次のようになります。

```
>><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soapenv:Envelope ...>
  <soapenv:Body>
    <ns1:LatLonListZipCode ...>
      <zipCodeList xsi:type="xsd:string"><< + zipCodeList + >></zipCodeList>
    </ns1:LatLonListZipCode>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope><<
```

このプロセスを続けて、すべてのパラメーターを変数に置き換えます。

パラメーターが変数だけでなく式に依存する場合は、変数の代わりにその式を使用します。たとえば、パラメーターが $x+1$ のエクスプレッションに依存する場合、値を次のように置き換えます。

```
<< + (x+1) + >>
```

動的ライセンスの分配モードを有効にする

動的ライセンスの分配モードでは、RoboServer はリクエストごとにクラスタからライセンスユニットを受け取ります。リクエストされた数のライセンスユニットがある場合、RoboServer は、その数のライセンスユニットを取得できます。このモードの場合、RoboServer は Management Console とのみ通信し、API 呼び出しなどの他のリクエストをブロックします。

i 動的ライセンスの分配モードでは、ライセンスユニットが自動的に分配されます。これは licenseLimit パラメーターよりも優先されます。

動的ライセンスの分配モードは Kofax RPA バージョン 10.3 以降で使用できます。バージョン 10.7 以降は、インストール直後にこのモードをサポートします。動的ライセンスの分配を使用するには、バージョン 10.3 から 10.6 で、Kofax RPA のコピーを少なくとも以下のバージョンの 1 つへ更新します:

10.2.0.8
10.3.0.9
10.3.1.2
10.3.2.6
10.4.0.4
10.5.0.2
10.6.0.3

i ライセンス分配モードをサポートしない RoboServer に対してライセンス分配モードを静的から動的に変更すると、これらの RoboServer は Management Console の [RoboServer] セクションに表示されなくなります。Management Console に表示されない RoboServer を確認するには、モードを静的に変更して、Management Console を再起動します。